

平成 29 年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成



道府県・政令市名【宮城県】

1 実践テーマ	【I, III, V】
2 実践対象者	川崎町立川崎小学校 第1学年 38名, 第2学年 28名 第3学年 31名, 第4学年 42名 第5学年 42名, 第6学年 38名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育, 道徳) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	車椅子バスケットの強豪チーム「宮城マックス」の選手による車椅子バスケットの体験活動や、チームのヘッドコーチによる講演を通して、パラリンピックへの興味・関心を高めるとともに、スポーツを通して助け合う心や努力することの大切さを学ぶとともに、コミュニケーションの重要性について考える。
5 取組内容	『車椅子バスケット「宮城マックス」に学ぼう』 前人未到の全日本選手権9連覇を達成し、日本代表選手を多数輩出している車椅子バスケットチームの強豪「宮城マックス」のヘッドコーチと選手を招いて、車椅子バスケットの体験会と講演会を行った。 車椅子バスケットの体験活動では、5、6年生がシュート練習や選手とのミニゲームを体験し、その迫力や大変さ、そして面白さを学ぶことができた。ミニゲームでは、ゴールが決まるたびに全校児童の大歓声がおき、大変盛り上がった。





全校児童を対象にしたヘッドコーチの岩佐義明氏の講演では、前人未到の9連覇までの苦労、チームとして助け合うことの大切さ、障害を乗り越え活躍していくための努力について、日本代表キャプテンも務めた藤井選手のコメントを交えながら、教えていただいた。

	  <p>全校児童を対象にしたヘッドコーチの岩佐義明氏の講演では、前人未到の9連覇までの苦労、チームとして助け合うことの大切さ、障害を乗り越え活躍していくための努力について、日本代表キャプテンも務めた藤井選手のコメントを交えながら、教えていただいた。</p>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 車椅子バスケットの体験を通して、競技の難しさを実感するとともに、障害がありながらも巧みに車椅子を操作する選手の凄さを実感することができた。 • 選手がものすごいスピードで移動する姿を見せる一方で、自力で起き上がれない様子を実際に見せてくれたことで、障害者スポーツに取り組む選手の苦労や努力、パラリンピック競技への理解が深まった。 • 5年生の子どもたちが、宮城マックスの方々からたくさんのお話を聞いていただいた感謝の気持ちや、10連覇に向けてのエールを伝えたいということで、自主的にメッセージボードを作成した。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 実際に児童が体験できる場面や選手の動きを見る場面を取り入れ、ハンディキャップのある人の大変さを感じるとともに、障害がありながらもアスリートとして活躍する選手の凄さを実感できるよう、場の展開を工夫した。 • 講演では、9連覇に向けての選手個々の努力の様子やチーム一丸となって取り組む姿勢について、ヘッドコーチとして支えてきた岩佐氏の苦労と選手である藤井氏のコメントをいただき、子どもたちにスポーツを通して助け合う心や努力の大切さ、障害に負けない心の強さを実感してもらうように配慮した。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 講師は今後も要請に応じると言ってくださった。しかし、2020東京大会に向け、県内外から講演や体験会の依頼が増加していることや、ヘッドコーチを含め選手が日本代表に選出され海外遠征に出かけなければいけない状況にあることから、来校の日程調整が難しい。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 来年度もお呼びしたいと思う。